

研修名	第2回 精神保健福祉実務者研修 「 オープンダイアログのエッセンス ―開けゆく対話の可能性― 」
講師	熊本大学大学院人文社会科学研究部 教授 矢原 隆行 氏
開催日時	令和元年11月14日(木) 13:30~18:00
開催場所	北九州市総合保健福祉センター(アシスト21) 2階講堂
参加者数	第1部 49名 第2部 29名 (内訳:看護師、臨床心理士、保健師、養護教諭、精神保健福祉士、行政職員など)
研修の内容等	<p>精神保健福祉業務に携わっている方を対象に、相談支援技術の向上を図ることを目的とした研修の第2回目を開催しました。</p> <p>「オープンダイアログのエッセンス」と題して熊本大学大学院教授の矢原隆行先生にお越しいただき、講義に加え、ワークショップを開催し、参加者の方に実際に体験していただきました。</p> 
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 患者さまとの対話の重要性を新たに感じる事が出来ました。日々の業務の合間での患者との会話をこれからはもっと大事にしていきたいと思えます。</li> <li>• 訪問の場面で生かせるところがいくつかありました。聞くことの大切さを改めて実感しました。助言や自分の意見を口挟んでしまいがちになることはありますが、もう一度改めて考えてみたいと思えます。</li> <li>• 即時実行は難しいでしょうが、解釈や指導的な意見を当事者に言わないという考え方や態度は当事者と信頼関係を構築する上で大切なことだと思えました。</li> <li>• 一対一での面談の機会が多いのですが、出来るだけ「幅」や「間」のことを意識していきたいと思えます。</li> <li>• 患者さまと対話する際、二人で話すことが必要だとわかり、生かしていきたいと思えました。</li> <li>• リフレクティングで3人が話されているのを聞いていて、自分は今「聞く時間」と分ける事が出来ました。その時間は、自分のことを考えることができ、普通の講義より、より深められた気がします。</li> <li>• 本人の意思をみんなで共有できる、自由に話せるのは大事と感じました。</li> </ul>